

課題の概要

- 課題分類 「ライフサイエンスの先端科学技術が社会に与える影響の調査研究」
○課題名 「意識の先端的脳科学がもたらす倫理的・社会的・宗教的影響の調査研究」
○研究代表者名 「福山 秀直」
○中核機関名 「京都大学」

調査研究の目標・概要

1. 目的・目標

脳科学の進歩により、マインドリーディング、電磁脳刺激やニューロフィードバック（脳を自己コントロールする訓練）による能力増強（ニューロエンハンスメント）が実用化され社会に普及しつつある。これらは、宗教カルトでの洗脳への利用、能力増強の有無による格差社会を生む危険性があり、欧米で問題視されている（ニューロエシックス）。この緊急課題に対応して、本提案課題では、脳科学技術政策の国際的動向調査、国民の問題意識調査等とそれらの分析研究を学際的・俯瞰的に進め、脳科学技術の安寧な振興に資することを目的・目標とする。

2. 内容

本提案課題では、脳科学者、臨床心理学者、宗教学者などとの有機的な連携をもったフィールドワークで脳科学技術の現状を明らかにし、欧米のニューロエシックス政策の現地視察により国際的動向を調査する。また、国民意識調査を実施し、これらを総合的に分析することで、我が国の今後の安寧な科学振興政策立案の基礎データに供する。さらに、成果の深化と社会への還元を目的としワークショップや公開国際シンポジウムを開催する。

3. 実施体制

京都大学（脳介入技術の安全性の脳生理学的研究）を中核に、京都文教大学（臨床心理・宗教的・精神的側面の研究）、佛教大学（ニューロエシックス政策の国際動向研究）が脳科学技術の現状と各国の政策を国際調査し、京都文教大学（国民意識の社会調査法による研究）が量的・質的な国民意識調査を行う。各サブグループの有機的な連携のもとに調査データを分析する（総合統括）。京都大学は、他大学と連携しての脳科学、倫理学、心理学、宗教学の横断的研究の積み重ねがあり、中核機関に適任である。研究代表者の福山秀直は、異分野協同プロジェクトで指導的役割を果たしてきた脳科学者で、取りまとめ役として適任である。

調査研究の成果による波及効果について

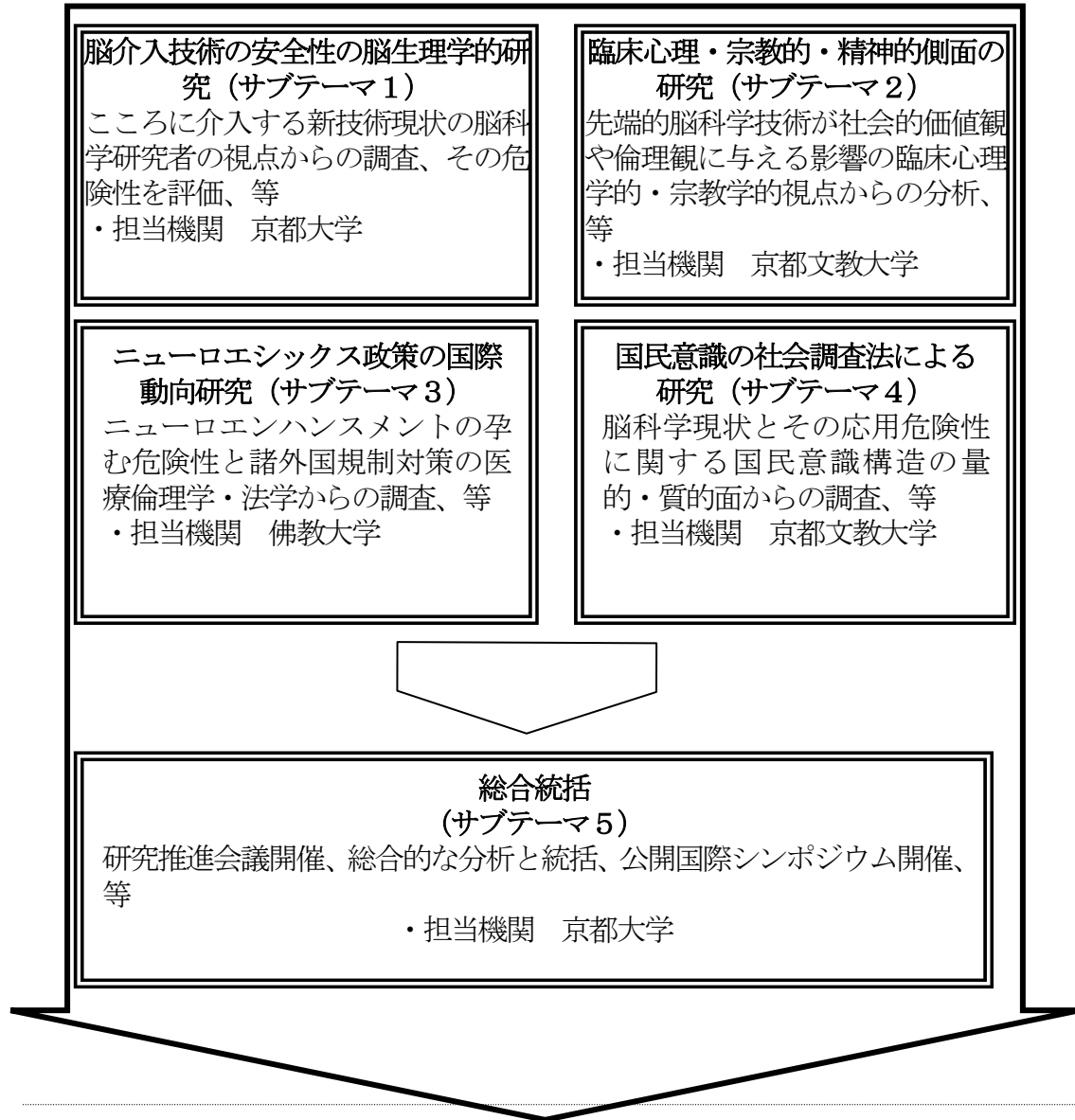
調査研究成果をもとにした安寧な脳科学技術振興政策を立案することが可能となれば、脳科学に関する国民の不安を払拭し、国民のニーズを反映した研究資金の有効配分を行うことができる。また、調査研究結果についての公開国際シンポジウム等の開催により、脳科学技術が孕む問題に関する一般国民への啓発となる。

調査研究終了後の展開について

本提案課題での成果を総合科学技術会議の生命倫理専門調査会等での議論の基礎データに供することで、先端的脳科学の新技术開発と国民の倫理的意識やニーズとの間でのバランスのとれた安寧な科学技術振興政策策定に資する。

課題の実施体制

- 課題分類 「ライフサイエンスの先端科学技術が社会に与える影響の調査研究」
- 課題名 「意識の先端的脳科学がもたらす倫理的・社会的・宗教的影響の調査研究」
- 研究代表者名 「福山 秀直」
- 中核機関名 「京都大学」



期待される成果

- (1) ニューロエンハンスメントなどの先端的脳科学技術のリスク把握
- (2) ニューロエシックス関連の科学技術政策の国際動向把握
- (3) 倫理的・社会的・宗教的影響に関する国民の問題意識構造把握
- (5) 新技術開発と国民意識の間でのバランスのとれた脳科学技術に対する科学技術振興政策策定のための基礎資料
- (4) 調査研究結果に基づく公開国際シンポジウムによる社会への情報発信

課題の実施内容

リスクに対する国民意識等の検討
担当: 京都文教大学

臨床心理・宗教的・精神的側面等の検討
担当: 京都文教大学

安全性に関する脳科学的検討
担当: 京都大学

先端的な脳科学技術に関わるリスク

具体的には

- ・能力増強の有無による格差社会の固定化などに関する社会的・倫理的問題
- ・能力増強が個人の尊厳やアイデンティティにもたらす意味などに関する臨床心理学的・宗教学的的問題
- ・安全性や副作用などに関する医学的問題

諸外国の規制政策等の検討
担当: 佛教大学

国際的ハーモナイゼーションの必要性
欧米の指導的研究期間を視察して、諸外国の政策を調査検討する

我が国の安寧な
脳科学技術
振興政策の策定

総合統括
担当: 京都大学

医学的な視点、心理学・宗教学的な視点、社会学・倫理的な視点を取り入れた多元的な手法で、脳科学技術のリスクを洗い出し、リスクマップを作成する。

・国民意識調査を基に、脳科学技術のリスクマネジメント体制へ向けた具体的提言
たとえば、ガイドライン策定への準備作業、リスクモニタリングの独立機関の創設

・脳科学技術と国民意識の間での双方向的なリスクコミュニケーションの充実
たとえば、国際公開シンポジウムの開催